

作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量 （島根県）

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和5年産水稻の作付面積から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた作付面積（子実用）は1万6,100ha（前年産に比べ300ha減少）となった。

また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は1万5,900ha（前年産に比べ200ha減少）となった。

2 作柄概況

5月下旬から7月上旬にかけて、雨の日が多く日照が平年より少なかったことから分げつが抑制され、穂数は「やや少ない」となった。その後、高温、多照で推移したことや、穂数がやや少ないことによる補償作用により、1穂当たりもみ数は「多い」となり、全もみ数が「平年並み」となった。7月下旬以降、総じて高温、多照で推移したことから、登熟は「やや良」となった。

作柄としては、生育がおおむね順調に推移したものの、カメムシによる着色粒や高温による未熟粒等の収量基準未満の玄米があったことから、10a当たり収量は515kg（前年産に比べ4kg減少）、作柄表示地帯別では、出雲で525kg（前年産並み）、石見で490kg（前年産に比べ16kg減少）となった。

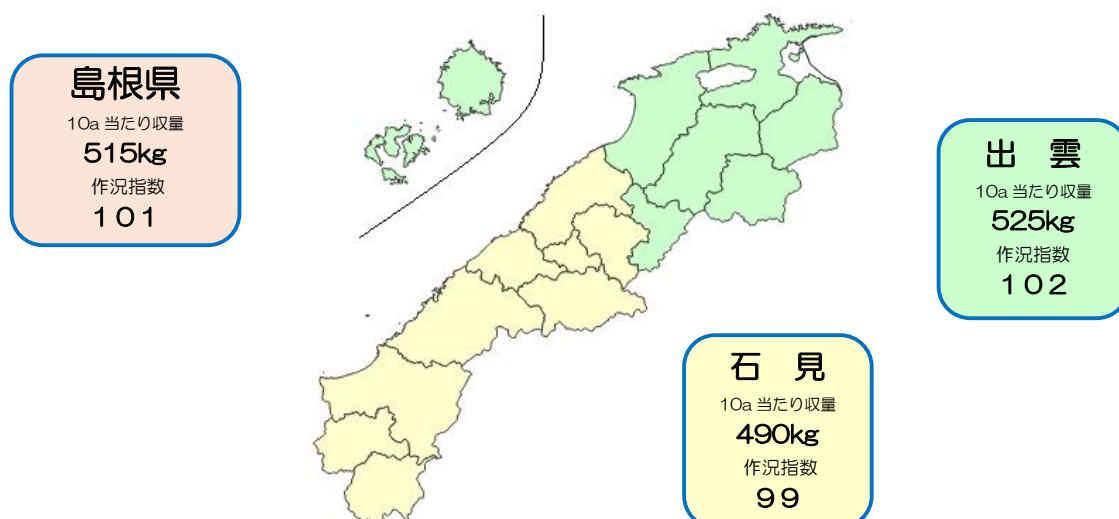
また、農家等が使用しているふるい目幅（1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は101の「平年並み」、作柄表示地帯別では、出雲は102の「やや良」、石見は99の「平年並み」となった。

3 収穫量

収穫量（子実用）は、8万2,900t（前年産に比べ2,200t減少）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、8万1,900t（前年産に比べ1,700t減少）となった。

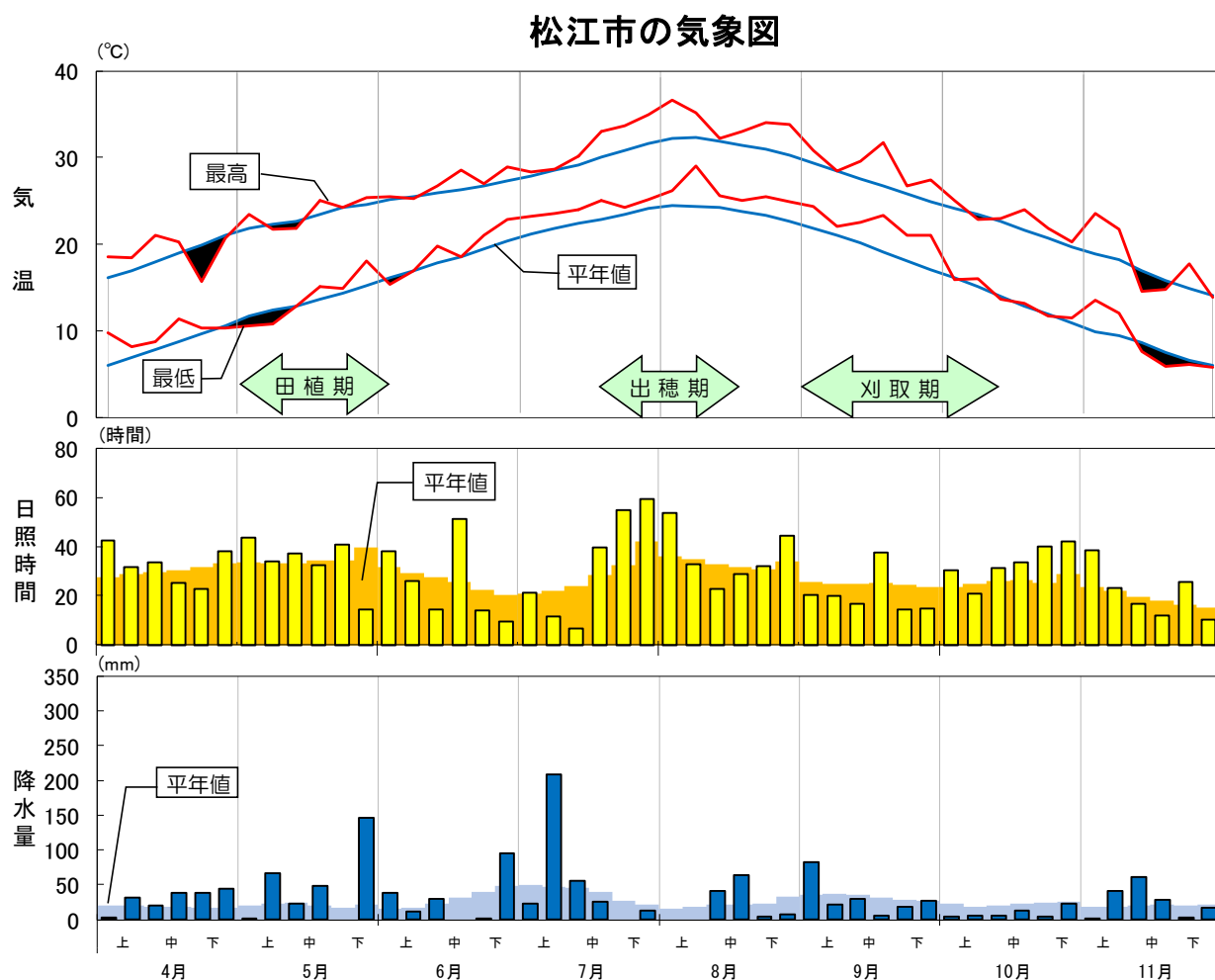
図 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数



◎累年統計表

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
島根県 平成25年産	19,100	514	98,200	18,800	96,600	101
26	18,600	503	93,600	18,200	91,500	99
27	17,900	503	90,000	17,500	88,000	98
28	17,700	528	93,500	17,300	91,300	104
29	17,500	519	90,800	17,200	89,300	102
30	17,500	524	91,700	17,200	90,100	103
令和元	17,300	506	87,500	16,900	85,500	99
2	17,100	511	87,400	16,800	85,800	99
3	16,800	521	87,500	16,500	86,000	100
4	16,400	519	85,100	16,100	83,600	101
5	16,100	515	82,900	15,900	81,900	101

◎半旬別気象図



資料：気象庁『アメダスデータ』

本資料は、「作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（中国地域・四国地域）」の補足資料です。

お問合せ先

中国四国農政局 島根県拠点 統計チーム

電 話：0852-26-7700